

ENOKI

えのき



第18回 榎町地域センター開設20周年記念

新春

えのき寄席

平成17年1月16日に産声をあげた「新春えのき寄席」、昨年は新型コロナの猛威に初の中止となりましたが、今年は大勢のお客様をお迎えして開催することができました。

これまでの出演者を振り返りますと、春風亭一之輔(現在「笑点」に出演中)、ワンコインえのき寄席では、神田松之丞(現神田伯山)、桂宮治(現在「笑点」に出演中)なども名を連ねています。もしかすると榎町地域センターの落語会は笑点メンバーへの登竜門!?なんて言われるようになるかもしれません。

さて、今年は開設20周年記念事業ということで予算的にも従来より少くしだけ余裕があったこともあり、「三遊亭兼好 橋家文蔵 二人会」として開催しました。

三遊亭兼好師匠は笑点メンバーの後継として三遊亭円楽師匠(2022.9.30逝去)が生前指名していた一人とも言われています。28歳で落語家へ転身した苦勞人です。

橋家文蔵師匠はがっしりとした体格とどすが効いた威勢の良い口調で豪快な「乱暴者」キャラを見事に演じる落語会においても特異な存在感を放っています。

このお二人の競演に会場は大爆笑の連続でした。次回の予定は6月25日(日)の「ワンコインえのき寄席」です。あなたも生の落語を聞いてみませんか。

昭和の良き時代

校庭の映画会

まさやが小学校三〜四年生のころ、江戸川小学校の校庭で、よく映画会があった。とくに暑い夏、子どもたちの夏休みの時期に多かった。

その映画会、小学校の校舎の壁に大きな白い幕を垂れ下げてスクリーンとした。映写機は16ミリ専用で、フィルムも当然16ミリ。映写機とスクリーンの間は2メートルはあったろう。だからスクリーンに映る映像は暗く薄いものだった。戦後間もない頃だったので、スピーカーも質が悪く、音も割れガーガーと雑音も入ってにぎやかだった。

そんな映画会でも、「映画があるよ」と知らされると、まさやは何日も前から友達と一緒にわくわくしたものだ。

その映画会はこの主催だったのか、子どものもまさやは知らないが、後年聞いたところによると、青年団だったようだ。まさやの目から見ても若いお兄さん、お姉さんたちが、夕方から準備とびまわっていた。映画会には200〜300人は集まっていた。校庭の入り口付近には夜店が並んでいた。綿菓子はもちろん、セルロイド製のお面売り、バナナのたたき売りなども出ていたし、結構売れてもいた。

映画会の当日、風が強いとたまらない。大きな布のスクリーンが風ではためいてしまうし、四方八方をロープで張ってもその風にはかなわない。パタパタとスクリーンが揺れれば、映像も当然揺れてしまう。映像の人の顔も、景色も建物も、山も川も海も、映画を見ている人たちに関係なく揺れてしまう。

でも、観に来た人たちはだれも文句は言わない。屋外の映画会だし、何と言っても入場無料だからだ。

観客は、おにぎりを持ってきて映画を見ながらぱくつく人、おせんべいをかじる人、孫を膝の上に乗せ、背を丸くしてじっと見る人、ゴザを敷き、新聞紙を広げて座る人、破れかかった団扇で涼を取る人など、さまざまだ。もともと映画はどうでもよく、大勢の観客の周りを元気に走り回っている小さな子どもたち。それでも観客は怒らない。

町の多くの人たちが集まった映画会だ。

夜は寝るだけ。ラジオのほかこれといった娯楽の少ない昭和二十年代前半の時代、映画という自分とは違った世界に入り込むことができ、劇映画だったら自分が主人公になったつもりで泣き、笑い、怒り、悪人を懲らしめ、物語に入り込める。それもただで。見たことも、行ったこともない山や川、自然を知ることができるし、こんなに良いことはない。

だから、映画会の何日も前から、まさやたちは軒下にテール坊主をぶら下げ、雨の降らないことを願っていた。映画会当日、良い天気になれば、風でスクリーンが揺れ

(昭和26年〜27年頃)

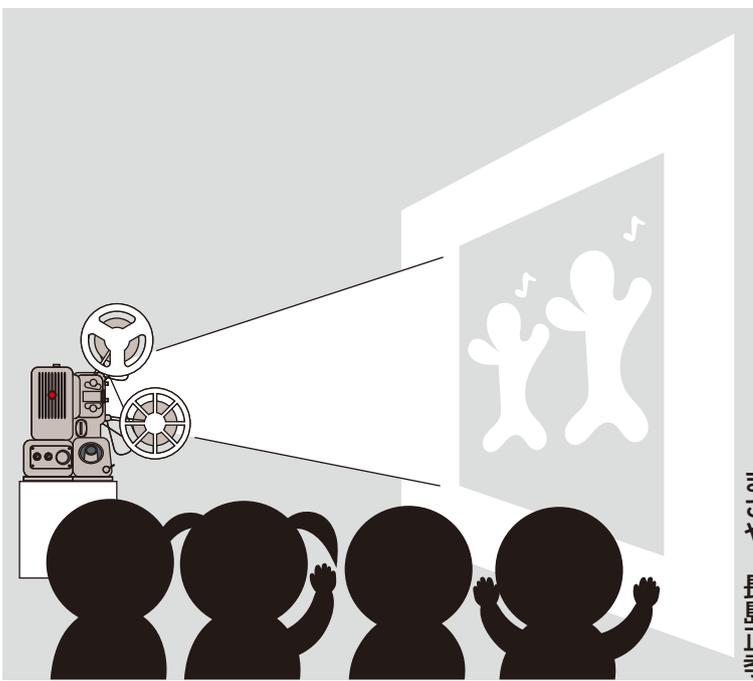
ることなど全然気にしなかったんだ。

映画は多くがモノクロだった。子ども向けのディズニーの漫画映画、ポパイ、ミッキーマウス、ドナルドダック、そして、アメリカのオリンピック水泳選手だったジョニー・ワイズミュラー主演の「ターザン」など、大人向けの劇映画もあったのだろう。

校庭での映画会、何とも楽しかった。まさやの思い出の一つとなった。

水道町

まさや 長島正孝





えのき声かけ隊

「ひとり」から「みんなで」をめざして

えのき声かけ隊は、榎町地区町会連合会(会長 松永 健:原町丁目町会会長)が、地域の絆が薄れつつある今、あたたかい声かけを行い「人にやさしいまちえのき」を築いていきたいと

いう願いを持ち、令和元年度より継続している活動です。ここでは、令和4年10月14日に開催した「えのき声かけ隊ワンポイント講座」をご紹介します。

健康講座 フレイル予防

第1部「健康講座フレイル予防」では、新宿区健康部の寺西氏より、長引くコロナ禍で増加しているフレイル(虚弱)についてお話を聞き、「しんじゅく100トレ」でフレイル予防となる身体の動かし方を体験しました。



「しんじゅく100トレ」でリフレッシュ、そして筋力アップ!

夏目漱石と作品の舞台



作品からかつての地域の状況を読み取ります。

第2部には、新宿歴史博物館の鈴木氏に登壇いただき、「地域語り 馬場下町の金之助、早稲田南町の夏目さんー夏目漱石と作品の舞台ー」と題して、夏目漱石の作品から見るかつてのこの界隈について語っていただきました。

健康講座のアンケートでは、「知らぬ間にフレイル状態になっていた、参加してよかった」「フレイル予防の意味を知り、筋力がいかに大切かよくわかった」「等フレイルに関する気づきが語られました。」

地域語りには、「榎町地区の歴史をもっと知りたい。漱石の作品を久々に読んでみようと思う」「漱石の散歩コースを歩いてみたい」「等のコメントをいただき、文豪の作品を通して地域を知り、地域に誇りを持つすばらしさを感じる事ができました。」

高齢者クラブでいきいき元気に暮らそう

榎地区の高齢者クラブの最近の活動状況をお知らせします。

① 令和4年度

秋季高齢者福祉大会

17 令和4年11月17日(木)

➡ 新宿文化センター大ホールにおいて開催されました。

➡ 榎地区の高齢者クラブの皆様が日頃の練習の成果を披露しました。

➡ 参加されたのは、次の高齢者クラブの皆様です。

演目「合唱」出演順です。

弁天町和老クラブ「瀬戸の花嫁」

早稲田長寿会「くちなしの花」

原「わらく会」幸せなら手をたたこう

あかぎ友の会「赤城友の会小唄」

演目「新舞踊」

原「あゆみ会」マツケンサンバ」

以上

(資料提供: 新宿区高齢者クラブ連合会)

えのき文芸

短歌

洪滞のバスの窓より菜の花と

桜並木の里山明し

風そよぐ枯芝原の丘歩き

さざれのすみれあちこちに映え

金成 光祥

古里の残雪光る山々の

裾野を飾るかたくりの花

亡き友の墓参に向う坂の道

しだれ桜に思い出しのぶ

山口 敏子

大雪コロナ日本列島を痛めつけ

漸く春にバトンを渡せり

青木 久彌

夕やけや夕月背にし光る機に

乗って行きたしあの世の人と

山岸 たいこ

俳句

長き列穴八幡に春立つ日

しばし身を春風まかせお堀端

金澤 誠

立ち漕ぎの少女の肩や風光る

妻病みて皿を洗いて冷たさを知る

佐藤 明

黒塀のつづく街並みしだれ咲く

紅梅の花弁を敷いて雛の膳

山口 敏子

川柳

満開だ雨の桜が重たそう

孫生まれ引っぱり出した雛人形

菅野 あきら

うっとりときさせる言葉に気が緩む

酒旨し花見の宴の無礼講

小山 一湖

バスデイが「恐竜の日」と驚愕す

青木 久彌

サウナにて談志ぬうつと来て座る

佐藤 明

(*川柳は、五七五の文芸ですので、

修正して掲載しました。編集部)

広報部からのお知らせ

広報誌「えのき」に関するご意見やお問い合わせ、情報提供など榎町地域センター事務局までお寄せください。

「えのき」文芸に掲載の作品を募集しています。次号の俳句のお題は『夏』、川柳は自由吟です。

投稿はハガキかファックスで、俳句川柳の別を明記の上、6月10日(土)までに榎町地域センター事務局迄お送りください。

〒162-0042 新宿区早稲田町85
TEL(3202)8585 FAX(3202)2478

地域コミュニティ事業助成について

新宿区では地域コミュニティの活性化、絆づくりに向けた活動について、費用助成をします。

● 助成率▼4分の3 ● 限度額▼10万円

● 申請受付期間

第1回(終了) 令和5年3月6日(月)～4月7日(金)

第2回 令和5年4月10日(月)～5月31日(水)

第3回 令和5年6月1日(木)～9月29日(金)

第4回 令和5年10月2日(月)～12月28日(木)

● 対象となる団体

町会・自治会、地区町会連合会、地区協議会、当該事業の実行委員会、

NPO・ボランティア団体等

● 対象事業

① 地域全体の課題解決に資する事業 ② 安全安心なまちづくりに資する事業

③ 地域交流の促進に資する事業

※対象とならない事業

・ 官民問わず、何らかの助成を受けている、又は申請中の事業

・ 政治、宗教の活動を含む事業 ・ 営利を目的とする事業

・ 事業対象が会員など、特定の者に限られる事業等

問合せ先 榎町特別出張所 新宿区早稲田町85番地

電話03・3202・2461 FAX03・3202・2476